

3D 業界初!!

で EMC ノイズを可視化



特許出願中

特願 2012-096771



森田テック製アンテナ
(オプション)

WM9500/ステレオカメラ&CCDカメラ

測定用撮像カメラと位置検出カメラを一体化。
撮影した画像を PC で見ながら、測定エリアを決定

**画期的な手法
高精度3D測定**

ステレオカメラを採用
3次元でノイズ源を発見

**使いやすい
驚きの操作性**

手持ち操作による測定で
狭所も余裕の測定を実現

**組み合わせ
自由自在!!**

お手持ちの磁界センサ (アンテナ)
やスペアナを流用できる

解析に不可欠な周波数成分まで取得!!

3D EMC Noise Scanner 3次元空間電磁界可視化システム

WM9500



森田テック株式会社

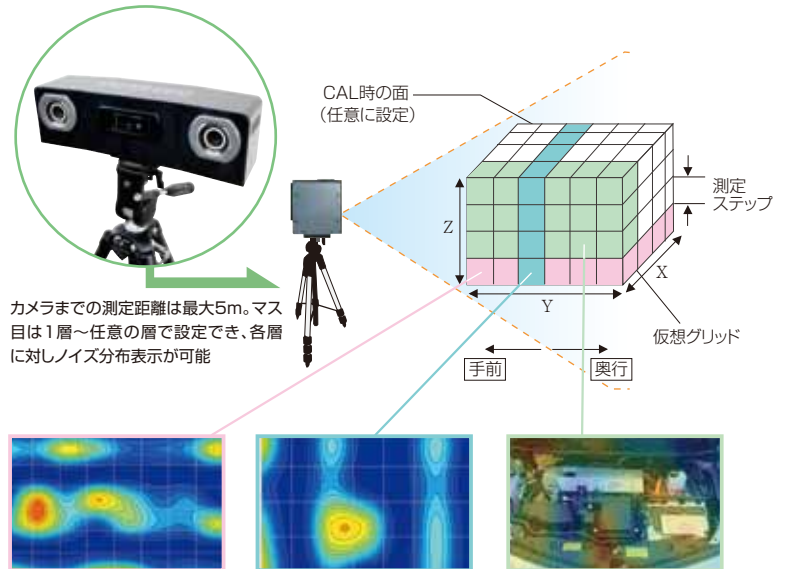
3次元測定がEMCノイズ測定に革新をもたらす

画期的な手法、高精度3D測定

ノイズ発生源を多角的に分析可能

「WM9500」は、赤外線センサにより空間内のXYZ位置を検出し、被測定物から放射される電磁波の測定を実現しています。

1. 専用の「ステレオカメラ」を設置し、同カメラによる撮像イメージをPCで確認しながら測定エリアを決定します。
2. 手持ちのアンテナを測定したい箇所に当てて赤外線マーカを設定。測定エリアに1~数10cm³の立方体のマス目(メッシュ)を任意に切ることができ、アンテナを任意に移動するとPCにノイズマップが表示・保存されます。これによりノイズの発生場所、放射方向、周波数成分など解析に不可欠なデータを得ることが可能になります。



カメラまでの測定距離は最大5m。マス目は1層~任意の層で設定でき、各層に対しノイズ分布表示が可能

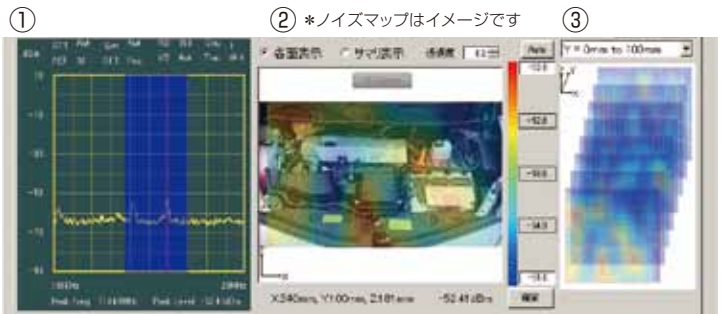
任意のX-Y、X-Z、Y-Zの断面イメージを抽出可能。ノイズ発生源や発生分布の様子をビジュアルイメージで特定できる

使いやすい、驚きの操作性

測定現場や対象物に影響されない

赤外線で座標を認識するため、測定環境や場所などの条件を選びません。また測定現場の照度や対象物の色の影響を全く受けないため、ユニット単体や完成品のノイズ測定が実現できます。

例えば、自動車のエンジンルームやトランクルームなど、狭所や暗所を問わずあらゆる箇所での測定が可能です。手持ちによる測定の機動性を活かしながら、詳細かつ多角的な測定データを簡単に取得できるのが、WM9500の最大の魅力です。

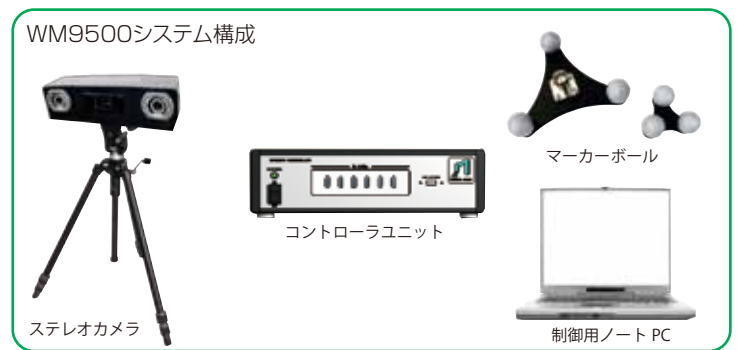


スペクトラムアナライザでノイズ測定した例。①任意の周波数範囲での分布の確認、②写真とイメージの重ね合わせ、③高さ方向でのデータの切り取りが実現できる

組み合わせ、自由自在!!

お手持ちの装置をそのまま流用

システムの基本構成は、CCDカメラ一体の三脚付き「ステレオカメラ」、制御用ノートPC、コントローラユニット、マーカボール、専用ソフトウェア——の5つ。スペクトラムアナライザと測定用アンテナは、お手持ち品をそのまま流用できるので、導入コストを抑えられます。



WM9500仕様

測定範囲	推奨 約0.6m~2m(最大約5m)、視野角56°
測定方法	赤外線反射式(850nm)による空間座標取得
カメラ	オートフォーカス機能付きハイビジョンカメラ
測定位置精度	±1mm(推奨距離2m時)
測定ピッチ	最少1mm(制御用ソフトウェアの設定で任意設定可)
外観寸法	本体:W400×D109×H124(mm)
	コントローラ:W320×D280×H94.5(mm)
制御方法	USB2.0
入力電圧	AC100V-AC240V
最大消費電力	60VA (MAX)(スペクトラムアナライザは含まず)
コントローラ	専用PC

製造元



森田テック株式会社

〒206-0804

東京都稲城市百村2113-4

TEL: 042-401-6330 FAX: 042-401-6331

e-mail: info@morita-tech.co.jp HP: www.morita-tech.co.jp

各種センサーやプローブ



WM9500の機能と性能をフルに出すためには、弊社製プローブ(左)やアンテナ(右)を推奨します

販売代理店